

平成28年度文化財保護審議会 会議録

- 1 開催日時  
平成29年2月13日（月）  
開会 午後1時30分  
閉会 午後3時30分
- 2 開催場所  
尾張旭市役所3階 302・303会議室
- 3 出席委員  
斎場和志、林宏、桐原千文、奥野絵美 4名
- 4 欠席委員  
なし
- 5 傍聴者数  
0名
- 6 出席した説明者  
公益財団法人 瀬戸市文化振興財団 埋蔵文化財センター所長 岡本直久
- 7 出席した事務局職員  
教育長 河村晋、教育部長 萬谷久幸、教育部次長 平野良子、  
文化スポーツ課長 西尾哲弥、文化スポーツ課文化振興係長 林正信、  
文化スポーツ課 青山航、藤森あかね 7名
- 8 議題等
  - (1) 議題
    - ア 平成28年度文化財保護関連事業の実績等について
    - イ 城山公園埋蔵文化財確認調査の結果について
  - (2) その他  
平成29年度予算要求主要事業について
- 9 会議の要旨

会長	ただ今から、平成28年度尾張旭市文化財保護審議会を開催いたします。 尾張旭市文化財保護条例の規定による定足数に達しておりますので、会議を始めたいと思います。 議題に入る前に河村教育長よりあいさつをお願いします。
教育長	(あいさつ)
会長	ありがとうございます。 では、議題に入らせていただきます。本日の会議は、議題が2つありますが、議題（1）ーイ城山公園埋蔵文化財確認調査の結果についての説明をしていただくため、公益財団法人 瀬戸市文化振興財団 埋蔵文化財センターの岡本所長にお越しいただいておりますので、まず議題（1）ーイから行いたいと思います。

会長	それでは、岡本所長から御説明をお願いします。
岡本所長	(資料2に基づき説明)
会長	続いて、遺物について御説明をお願いします。
岡本所長	(遺物について、実物を提示しながら説明)
会長	ありがとうございました。 それでは、御質問がありましたらお願いします。
林委員	文献として残っている事と発掘結果をつなげる必要があると思います。この新居城主であった水野氏は、江戸時代のはじめか豊臣の時代くらいに農民に身分を落としています。水野家の伝承集によると、水野又太郎良春は1361年頃に志段味から新居に来ているので、水野又太郎良春の3代あるいは4代の子孫、水野雅楽宗国が新居城を作ったのは、その約100年後ではないかと思われれます。1400年代の半ばくらいに、あの堅固な新居城を作ったと思います。例えば、瀬戸の桑下城では、織田氏と今川氏との激しい戦いが数年にわたり行われ、その戦火により割られた茶碗類の遺物が堀の中から発掘されているのです。今の話の中で不思議にもお城が機能していた時代の土器類の発掘が少ないというのは、新居城は戦火にあっていないという事の現われと言えるのではないのでしょうか。
岡本所長	それは十分に考えられます。
林委員	唯一、大森の尾関氏と戦っており、それは砂川合戦といい、場所は名鉄瀬戸線のアンダーパスがある辺り一帯で戦いが行われ、尾関軍を追い返し、逆に大森城まで攻め込み尾関氏を追放したという勝ち戦の伝承しかないのです。その頃の水野氏は非常に戦上手で周辺の25か村の土地を全部治め領地にしたというのが伝わっているのですが、東春日井郡と西春日井郡に分かれたのは明治の初め頃だと思いますが桐原先生違いますか。
桐原委員	間違いありません。
林委員	春日井郡から分かれた後の東春日井郡は100か村くらいあったようですが、特にその中の25か村と言うと相当広大な領地を持っており、大きな堀と土塁を作っているという事は納得できます。この地形や周りを堀で囲まれていたという事ですが、どちらか分らないです。七原先生の発掘調査書を読むと南側と西側は湿地帯だったから土塁や堀を築く必要がなかったとすると、出てきたのは東側と北側ですよね。はっきり分かるのは、北側は丘陵が続いているから、土塁なんていらなと思ったんですけど、やはりどこから攻められるか分らないから、山の方にも土塁をしっかり作って堀も掘ったという事ですか。
岡本所長	例えば南側と西側が湿地帯という事は、多分敵側も知っていますので攻めてくるとすれば丘陵側ですよね。丘陵側こそ守るべき

	かと思えます。
林委員	そうすると、その謎というのはまたおいおい今の堀の深さの話を含めて、また発掘しながら解明していくというようなお話でしょうか。
岡本所長	はい。そうですね。
会長	ありがとうございました。
岡本所長	(退室)
会長	続いて、議題(1)ーア平成28年度文化財保護関連事業の実績等について、説明をお願いします。
事務局	(資料1に基づき説明)
会長	ありがとうございました。 それでは、御意見、御質問がありましたらお願いします。
林委員	<p>特にここ1, 2年で大変変わってきたなと思っています。今回も大変感謝しております。例えば私ども、ふるさとガイド旭をやっておりますが些細なことですけど文化財とか史跡の保護に関係していると思うんですけど、史跡めぐりをしまして教育委員会の方で立てて頂いた案内板、説明板に非常に不備な物がこれまではありました。7年かけてやっと殿様街道の八瀬の木の入口分岐点に小型ですが看板が立ち、ありがたいです。今回も三郷、昔の瀬戸川村の山ノ神社の境内の入口に誤った表記の案内板が正しい表記の案内板に刷新して頂いて大変助かります。</p> <p>それともう一点、学芸員の方がよく働いてみえてスカイワードあさひの3階で、ミニ企画展をこんなにたくさん開催していた事を私は知らなかったのですが、よく頑張られたなと思います。さらに出張企画展も行われた。本当にこういう事をやって頂くと市民の方に尾張旭の昔のことについて関心を持って頂けて素晴らしいです。ただ一つ、宣伝はどのくらいされていきましたか。「広報おわりあさひ」で毎回全部報告されたのでしょうか。</p>
事務局	ミニ企画展は、今年度から各小中学校にはポスターを貼ってございます。あとは、ホームページだとか歴史民俗フロアの1階のところで周知はしているのですが、まだ認知の方が追いついてないと思っております。
会長	この件につきまして、今までにない新しい事だと感じたんです。ポスターも素晴らしい。しかし、掲示場所が小中学校だと大人の目にはなかなか入ってこない。またホームページも誰もがいつも見ているわけでもないで、これからの事になります。ぜひ何か工夫して頂けるとすごくありがたいなと思います。ポスターを見て素晴らしい内容で私も見れば良かったなと感じました。ぜひ、引き続きお願いしたいという事と学芸員さんは継続的に関わってもらうことが大切だと思いますので、正規で雇ってください。これ

	は要望です。
桐原委員	私も学芸員の正規雇用が一番理想だと思います。しかし、1人だけでは次に繋がらないので、正職員になった場合でも学芸員をサポートしていく体制が必要だと思います。
林委員	瀬戸では正職員の学芸員さんを3、4人雇っているようです。教育長さんも「郷土の学習を大事にしたい」と書いてらっしゃるので、その意識を持って身分の保証をしていくことが尾張旭の歴史に対して目を向けて頂く第一歩だと思います。
教育長	市としては、正職員それはそれで良いという事がありますが、正職員になりますとこの中で1名が実際のところ減になってしまいます。今は嘱託職員という事でプラスの形でやっていますが、それが良いか悪いのかはいろいろな形があるかとは思いますが。 先ほど言われましたようにここ数年で文化スポーツ課も積極的に活動をやっており、予算がなくてもこういった部門というのは、なかなか気付かないですけど地道にいろいろ考えて増やしてきました。小中学校の方にも啓発を行っております。今、駅にも市の掲示板があります。市の中には文化に大きなポイントを置いている幹部職員も多いので、やれるか分かりませんが話を聞かないと動けませんので、こういった機会にたくさんお話が聞けたらいいなと思います。
会長	確実に成果は上がっていると思いますのでよろしくお願い致します。
桐原委員	ミニ企画展は非常に素晴らしいです。今ちょうど昔の暮らしとかを体験してもらうために、名古屋市博物館では毎日学校から700人程来ております。やはり子ども達に足を運んでもらう事が一番です。例えば「箱ずし」などを授業に取り入れて上手く動機づけし、1年通してできたら良いと思います。
会長	他に何かありますか。
林委員	ミニ企画展だから良いと思うのです。これが大きな部屋を全部使う展示ですと疲れます。でも、5分で見られるミニ企画展は多くの方に身近に感じてもらえるそれが一番大事ななと思います。 他には今年で2年目になりますが、市民活動支援センター主催で小中学校の先生方との交流会が持たれ、その中で小中学校の先生方とふるさとガイド旭が連携を取ったことがありました。具体的には東栄小学校の教頭先生から「3年生が使用している郷土読本があるが、尾張旭市在住の先生ばかりではないため、市のさまざまな歴史を肉付けして具体的に話すことが大変難しいので教えて頂きたい。また、解説書を書いてほしい。」と言われ、解説文章を作成して今年の3月に小学校で使われているのではないかと思います。小中学校で郷土の事をしっかり授業して頂くのはとても

	<p>嬉しいです。それぞれの地域により細かい説明ができれば良いと思います。</p>
会長	<p>次の事業へ行きます。新春ふるさとカルタ大会は小学生の人数が昨年度35人、今年度41人と増えております。この機会に多くの小学生に参加して頂ければと思います。</p> <p>ふるさとカルタは、尾張旭市の文化財をコンパクトに分かりやすくまとめた解説書だと思えます。しかし、言い回しが難しく大人のカルタといった印象です。大会以外でも子ども達が使える子ども向けのカルタに改良されてはどうでしょうか。</p>
林委員	<p>ふるさとカルタは市制40周年にふるさとガイド旭が約2年かけて作りしました。読み札は多くの人に分かりやすいよう5・7・5の俳句のリズムで作成しましたが、固有名詞や人名、地名等が多く、またあえて古い日本語をそのまま残して現代の子ども達へ伝えたいという考えもあって、分かりやすい言葉に言い換えることが困難な場合もありました。そういったところが子ども向けではないのかもしれませんが。今後、子ども達にも分かりやすく使えるように改良できたらと思います。</p>
会長	<p>他に何かありますか。</p>
奥野委員	<p>子ども向けの講座や現地説明会などの企画は広がりがあり素晴らしいと思います。現在テーマ展示等がバラバラに感じるので、関連した展示をすともっと良いと思います。また、夏休み等を意識して、夏休みの宿題に取り組みそうな企画をすると多くの子ども達が参加してくれると思います。</p>
桐原委員	<p>歴史民俗フロアのミニ企画展の1年計画などを作って学校にお知らせした方が良いと思います。</p>
会長	<p>御質問等はよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、全ての議題が終了いたしました。これをもちまして、平成28年度文化財保護審議会を終了します。</p> <p>ありがとうございました。</p>